

北区で^ふ触れる、 アートな時間

芸術に触れる楽しさを街全体で実感できる「札幌国際芸術祭2014」がついに開幕し、今、札幌の街はアート一色に。

そこで今回は、北区で活躍している街のアーティストの多彩な活動を紹介します。

皆さんも、さまざまな形で身近なアートに触れ、豊かな時間を楽しみませんか。

絵画の楽しさは想像（創造） を表現すること

ほりうち としよ
堀内 寿与さん

2年に1度、太平百合が原地区センターで油彩画の個展を開催している堀内寿与さん。篠路にあるアトリエでは、絵画教室も開いている。

堀内さんが、油彩画に本格的に取り組み始めたのは定年退職後のこと。「設計の仕事をしてたことや絵を描くことが好きだったため、絵画の世界は遠い存在ではありませんでした」と、当時を振り返る。1年後には初の個展を成功させ、以降、全日本美術協会主催「全展」や北海道美術作家協会主催「道美展」でも、特選や金賞など数多くの賞を受賞してきた。

現在は「札幌の街角シリーズ」に取り組んでいる堀内さん。「自分が感じたことをどう表現したいのかを追求していくこと。それが絵画の難しさであり、魅力でもありますね」と話してくれた。

💡 堀内さんの作品、どこで見ることができますか？

10月、太平百合が原地区センターで、恒例となった2年に1度の個展を開催予定！

美術館に行くのもいいですが、身近にある芸術作品にたくさん触れてほしいですね



「色の遊び」～和紙で彩る 絵画の世界

みや た
宮田 カツミさん



「『和紙絵画』を世界に誇る芸術として、もっと広めていきたい」。そう話してくれたのは、フランスなど海外でも自身の作品を出展し、多くの賞も受賞している宮田カツミさん。

「和紙絵画」とは、染色した厚さの異なる和紙をそれぞれ手でちぎりながら、のりで貼り合わせて絵を描いていく、いわゆる「ちぎり絵」。理想の色や形は、厚さや色の異なる和紙を何枚も重ね合わせていくことで表現する。さらに、宮田さんは目に映るものをそのまま模写するのではなく、そこで自分が感じたものをキャンバスにぶつけていく。

海外への出展以外にも地域での活動を続け、自宅や新琴似・新川地区センターで教室も開いている宮田さん。そんな彼女の独自の色の世界が、海外でも多くの人々の心を引き付けている。

作品制作だけでは得られない、生徒さんたちとの触れ合いの時間は、活動を長く続ける原動力になっています



💡 宮田さんの作品、どこで見ることができますか？

10月には、新琴似・新川地区センターの文化祭で、教室に通う生徒さんたちの作品と一緒に展示される予定です！